

令和 5 年 10 月 25 日現在

機関番号：32663

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2018～2022

課題番号：17KK0031

研究課題名（和文）サンスクリット写本研究の国際的ネットワークの新構築 - 『楞伽経』を基盤として

研究課題名（英文）New International Network for the Study of Sanskrit Manuscripts: On the Basis of the Lankavatarasutra

研究代表者

堀内 俊郎 (Horiuchi, Toshio)

東洋大学・文学部・教授

研究者番号：60600187

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 9,300,000円

渡航期間：12ヶ月

研究成果の概要（和文）：ドイツ、ハンブルク大学を拠点にして、Harunaga Isaacson教授との国際的な共同研究により、写本研究の最新の成果を取り入れつつ、『楞伽経』を中心とした仏典のサンスクリット写本研究の新たな国際的ネットワークを構築した。共催した国際ワークショップを成功裏に収め、ハンブルクにてもう一件の発表も行った。コロナ禍ではオンラインによっても研究を継続した。『楞伽経』、『決定義経注』、『阿毘達磨集論』関連文献、『般若心経』注釈文献などについて、主にサンスクリット写本に基づくテキストの読み直しを行い、着実な成果を上げた。日・英語による10数件の論文刊行や多数の学会発表を行い、成果を国際的に発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

インド仏教の研究にはサンスクリット写本の読み直しが必須であるが、そのような認識は必ずしも共有されているとはいえない。そのなか、本研究では様々なテキストについて写本の読み直しにより読みが抜本的に変わるということを複数の文献について複数例示することができたのが、学術的意義である。そして、いくつかの英語論文によってサンスクリット写本に基づく原典研究の重要性を国際的に発信することができたことと、国際ワークショップやオンラインでの会合などにより、多くの意を同じくする研究者と交流することができ、所期の通り、サンスクリット写本研究の新たな国際的ネットワークを構築することができたのが、社会的意義である。

研究成果の概要（英文）：Through international collaboration with Professor Harunaga Isaacson at the University of Hamburg, Germany, we have established a new international network for studying Sanskrit manuscripts of Buddhist scriptures, focusing on the Lankavatarasutra while incorporating the latest results in manuscript research. The international workshop co-sponsored by this research grant was successful, and I made another presentation in Hamburg. During the Covid 19, I conducted an international online exchange. Steady progress was made in rereading texts based mainly on Sanskrit manuscripts, including the Lankavatarasutra, the Arthavinizcayasutranibandhana, the Abhidharmasamuccaya and related texts, and the Commentaries on the Heart Sutra. We have published over a dozen Japanese and English papers and presented our findings internationally at numerous academic conferences.

研究分野：中国哲学・印度哲学・仏教学

キーワード：サンスクリット写本 『楞伽経』 『決定義経注』 『大乘莊嚴経論』 『般若心経』 『阿毘達磨集論』

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

インド仏教文献の研究にはサンスクリット写本の読み直しが必要であるが、そのような認識は共有されているとはいえない。筆者は『楞伽經』を研究しているなかで、既存の校訂テキストに瑕疵が多いことに気づき、しかもそれがサンスクリット写本の読み直しによって抜本的に改訂できることに気づいた。そして、そのようなことは他の多くの文献にも当てはまることに気づいた。実際、読まれずに眠っているサンスクリット膨大な数のサンスクリット写本が存在する。そこで、意を同じくする研究者とともにそのような文献を掘り起こす必要があると感じたのが、研究背景、研究の動機である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ハンプルク大学アジア・アフリカ研究所、および、同大学内の付置機関であるネパール・ドイツ写本カタログ化プロジェクト(Nepalese-German Manuscript Cataloguing Project) (NGMCP)ならびにインド・チベット語彙集成プロジェクト(Indo-Tibetan Lexical Resource) (ITLR)との組織的・有機的な連携のもとで、サンスクリット写本研究の第一人者であるHarunaga Isaacson 教授との国際的な共同研究により、写本研究の最新の成果を取り入れつつ、『楞伽經』を中心とした大乘仏典のサンスクリット写本研究に関し、新たな国際的ネットワークを構築することにある。

3. 研究の方法

渡航前には継続的に『楞伽經』の写本研究を行い、さらには大乘仏典のサンスクリット写本研究の最新状況について研究者と情報交換を行う。

渡航先では、共同研究者であるハンプルク大学のHarunaga Isaacson 教授との2週間に一度ほどの定期的な読書会・研究会を行う。具体的には、共同研究者は、研究代表者が作成したサンスクリット写本に基づく校訂テキストと英訳に対して、写本研究や欧米の研究成果を踏まえた観点から、コメントなどを行う。ハンプルク大学ネパール・ドイツ写本カタログ化プロジェクト(NGMCP)やITLR(インド・チベット語彙集成プロジェクト)との情報交換も行う。後者ITLRについては、セメスター期間中に週1回のペースで行われている編集会議にも参加し、『楞伽經』の写本読解によって得られた読みに基づく辞書の語彙の提供を行う。

研究成果の一端は、滞在期間中に、ハンプルク大学での研究発表の場(コロキウム)にて公表する。また、共同研究者を含めた4-5名の研究者を招いての、国際ワークショップの開催を行う。

4. 研究成果

Covid19の影響により計画に多少の狂いは生じたが、期間を延長したことにより、所期以上の成果をあげることができた。すなわち、2020年3月8日~10日に、ハンプルク大学において、4人の発表者による国際研究集会を共催することができた。20人ほどが参集する盛会となった。筆者の発表は、『決定義経注』という文献は、サンスクリット写本を読み直すことにより抜本的な読み直しが可能となるということを指摘したものである。また、2020年5月6日にはハンプルク大学コロキウムにて「Methodological Reconsideration of Tibetan and Chinese Translations of Buddhist Texts」と題する英語での発表を行った。さらに、『楞伽經』、『阿毘達磨集論』関連文献、『三法隨念經』関連文献、『般若心經』注釈文献などについて、主にサンスクリット写本に基づくテキストの読み直しを行い、着実な成果を上げた。それらの研究成果は日・英語による10数件の論文刊行や多数の学会発表によって開示し、成果を国際的に発表した。特筆すべきものは以下の通り。

「On the Sanskrit Manuscripts of ~」論文は、従来の『決定義経注』の校訂本では使用されていなかった1本を含め4本の写本を閲覧することに基づいた成果である。諸写本を見直すことによって、従来の校訂本作者によって存在しないとされていたG写本の数フォリオが実際は見いだされることが分かった。また、写本の読み直し、関連文献との対照、チベット語訳としてのみ残る同論に対する注釈書の参照などの作業によって、従来の校訂本に対して大幅な改訂を加えることも指摘した。

「『仏隨念注』・『仏隨念広注』に対する文献学的研究(2)」論文では、従来無批判にアサンガ(無着)著、ヴァスバンドゥ(世親)著とされていた2書について批判的吟味を行い、両書は彼らの真作ではなく、世親作の『釈軌論』に対する徳慧による注釈『釈軌論注』よりも後代の文献であるということ論じた。

「Textcritical Remarks on the Bauddhakoza II ~」論文では、以下のことを論じた。瑜伽行派派の文献は、サンスクリット語の原文、チベット語の訳文、中国語の訳文という3つの方法で保存されているものがあり、このような状況は、本文を理解する上で有益であることが多い。例えば、曖昧なサンスクリット語は、漢訳やチベット語の翻訳を参照することで、より明確にすることができる。逆もまたしかり。しかし、状況は必ずしも単純ではない。例えば、チベット語や漢訳の

原文が、現行のサンスクリット版本とは異なる系統に属していたり、翻訳者が訳語を間違えたり、意図的に変更を加えたりしている可能性があるからである。さらに、写本や訳本が伝えられる過程で、原典が破損した可能性もある。しかし、このような状況下においても、同じ作者の他の作品や同じ学派の文献を参照することや、さまざまなサンスクリット写本とその翻訳者の特徴を理解することで、原典や翻訳者の改変をある程度たどることができるはずである。同論文では、『阿毘達磨集論』および関連文献に登場する語彙の一部を調査し、関連文献の訳語の特徴を明らかにした。巻末では、パウッタコーシャシリーズの『瑜伽行派の五位百法』に対する 400 か所以上の修正案を提示した。

「Revisiting the “Indian” Commentaries on the ~」論文では、インド撰述とされる『般若心経』の注釈書のうち、ジュニャーナミトラとシュリーシンハ・ヴァイローチャナ注はインド由来ではなく初めからチベット語で書かれた文献であることを、「bhagavat (世尊)」という語の注釈様式をもとに初めて論証した。

「般若波羅蜜とマントラの語義 ~」論文では、ヴィマラミトラの『般若心経』注における般若波羅蜜多とマントラの語義を、関連するサンスクリット文献の精査により、初めて解明した。関連する内容は、国際仏教学会という国際学会にて 2022 年に発表した。

「翻訳チベット語文献・漢訳仏典読解への方法論的反省 ~」論文は、チベット語訳、漢訳文献をインド原典をたどるための資料として読む場合はつねにサンスクリット対応語を念頭において扱わねばならないことを、先行研究の語訳例を指摘しながら論じたものである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 Horiuchi Toshio	4. 巻 10
2. 論文標題 To read the text in the context of the translated language: Chinese translation of the MahAayAnasUtrAlaMkArabhASya	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Bauddhakoza Newsletter	6. 最初と最後の頁 9-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Horiuchi Toshio	4. 巻 11
2. 論文標題 Textcritical Remarks on the Bauddhakoza II : Focusing on Vocabulary in the Abhidharmasamuccaya and Related Texts	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Indian Philosophy	6. 最初と最後の頁 233-254
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34428/00013327	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Horiuchi Toshio	4. 巻 121
2. 論文標題 Revisiting the "Indian" Commentaries on the PrajJApAramitAhRdaya: Vimalamitra's Interpretation of the "Eight Aspects"	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Acta Asiatica	6. 最初と最後の頁 53-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 堀内俊郎	4. 巻 59
2. 論文標題 菩薩は般若波羅蜜に依拠して住す ヴィマラミトラの『般若心経注』より	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東洋学研究	6. 最初と最後の頁 181-200
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34428/00013748	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀内俊郎	4. 巻 58
2. 論文標題 インドにおける『般若心経』注釈文献の研究 ヴィマラミトラの「八様相」解釈	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋学研究	6. 最初と最後の頁 187-208
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34428/00013382	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Horiuchi Toshio	4. 巻 10
2. 論文標題 An Example of a Revision of Tibetan Translation: From AbhidharmasamuccayavyAkhyA ”	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際哲学研究	6. 最初と最後の頁 45-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34428/00012735	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Horiuchi Toshio	4. 巻 69
2. 論文標題 On the Sanskrit Manuscripts of ArthavinizcayasUtranibandhana	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 印度学仏教学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4259/ibk.69.3_1060	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Horiuchi Toshio	4. 巻 3
2. 論文標題 Critical Textual Evaluation of Two Paragraphs of the LaGkAvatAraSutra, Chapter 2 (Nanjo 55.2-58.2): Focusing on the Relationship of Manuscripts	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Bulletin of the International Institute for Buddhist Studies	6. 最初と最後の頁 69-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 堀内俊郎	4. 巻 9
2. 論文標題 「如是我聞」と結集者をめぐる論争 『般若心経』アティシャ注と『楞伽経』智金剛注当該箇所 の校訂テキストと訳注ー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際哲学研究	6. 最初と最後の頁 151-175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34428/00011567	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Horiuchi Toshio	4. 巻 13
2. 論文標題 Disputed Emptiness: Vimalamitra's Madhyamika Interpretation of the Heart Sutra in the Light of His Criticism on Other Schools	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Religions	6. 最初と最後の頁 1067-1067
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/rel13111067	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Horiuchi Toshio	4. 巻 14
2. 論文標題 Madhyamaka vs. YogAcAra: A Previously Unknown Dispute in Vimalamitra's Commentary on the Heart Sutra	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Religions	6. 最初と最後の頁 327-327
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/rel14030327	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 堀内俊郎	4. 巻 60
2. 論文標題 菩薩が目指すもの ヴィマラミトラの『般若心経注』後半部より	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東洋学研究	6. 最初と最後の頁 243-266
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀内俊郎	4. 巻 -
2. 論文標題 《楞伽經》「羅婆那王勸請品」の文本批判論評	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東方唯識学研究専門論文集(2022)	6. 最初と最後の頁 190-197
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 堀内俊郎
2. 発表標題 論《大乘莊嚴經論積》の漢訳 与佛教的中国化有關
3. 学会等名 第五屆東方唯識学年會（招待講演）（國際學會）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 堀内俊郎
2. 発表標題 Methodological Reconsideration of Tibetan and Chinese Translations of Buddhist Texts: Examining Commentaries on the Heart Sutra and the PiNDArtha
3. 学会等名 ハンブルク大学アジア・アフリカ研究所コロキウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 堀内俊郎
2. 発表標題 ArthavinizcayasUtranibandhanaの梵本写本について
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第71回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 堀内俊郎
2. 発表標題 インドにおける『般若心経』注釈文献の研究 ヴィマラミトラの「八様相」解釈
3. 学会等名 東洋大学東洋学研究所研究例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 堀内俊郎
2. 発表標題 An Example of a Revision of Tibetan Translation: From AbhidharmasamuccayavyAkhyA
3. 学会等名 パウッタコーシャ・プロジェクト全体研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 堀内俊郎
2. 発表標題 《『楞伽経』》「羅婆那王勸請品」の文本批判論評
3. 学会等名 第六屆東方唯識学專業委員会年会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Horiuchi Toshio
2. 発表標題 How Did Vimalamitra Read the Heart Sutra? Philological Investigation of the *AaryaprajJaapaaramitaahRdayaTikaa
3. 学会等名 19th Congress of the International Association of Buddhist Studies (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	アイザクソン ハルナガ (Isaacson Harunaga)	ハンブルク大学・アジア・アフリカ研究所・教授	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会	開催年
INTERNATIONAL WORKSHOP AND SYMPOSIUM AT HAMBURG UNIVERSITY: Toward a Construction of an International Network of Sanskrit Manuscript Study	2020年～2020年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ドイツ	ハンブルク大学			